

お客様も職員もともに幸せになれる会社を目指して

株式会社きららホールディングスの先頭に立ち、会社を牽引する鈴木嘉彦社長。大学時代に「自分は経営者になりたいのだ」と気づき、銀行で経験を積んだのちに両親の不動産会社を継いで、今日まで走り続けてきました。その足跡をたどります。



株式会社きららホールディングス 代表取締役

鈴木 嘉彦

まず、子ども時代の思い出を教えてください。

秋田県秋田市の郊外、太平山谷で生まれ育ちました。小学校から高校まで軟式野球部に所属しており、ポジションは小学校と中学校ではセカンド、高校ではキャッチャーです。地元の秋田高校に進学し、高校3年の夏は、31年ぶりに全国大会に出場できました。全国大会では、優勝した広島県代表の広陵高校と1回戦で当たりました。0-1でサヨナラ負けでしたが、大会終了後、広陵高校の関係者に「秋田高校戦が最も苦しかった」と言われたことは良い思い出です。

高校卒業後は地元を離れ、県外の大学に進まれたのですか。

はい。神奈川大学に入学しました。全国大会に出場したお陰で、

その後、きららホールディングス創業にいたるまでの経緯をお聞かせください。

伝いをしようと思ったのです。父は市議会議員を務めており、肉牛も40頭飼育し、さらに田園や森林も所有していましたから、選挙活動や農作業の時期には人手が必要でした。
ところが、いざ入行してみると、私が配属されたのは青森支店だったので。物事は思ったとおりには進まないものですね。今にして思えばこの配属も、独立を早めるひとつのきっかけでした。

銀行でのエピソードを教えてください。

就職先に銀行を選んだのは、将来会社を作るにあたって、お金の流れを勉強したい、という気持ちもありました。この4年と3か月の勤務期間は、とても良い経験になりました。
それに、支店の近くにあるお弁当屋さんで頻りに昼食を購入していたのですが、そこでアルバイトしていたのが、今の妻です。

関東、関西の野球の強豪校から推薦入学の話を受けたのですが、推薦で進学せず、国立大学を受験しました。第一志望の国立大学受験に失敗してしまったのですが、結果的に、神奈川大学に入ったことはとても良いことでした。将来やりたいことや就きたい仕事は漠然としていましたが、この大学で学んだことではじめて、「私は将来経営者になりたい」と気づくことができました。

大学ではどのようなことを学んだのですか。

専攻は経営学部で、松岡紀雄教授のゼミに入ったことが私にとってとても大きな経験でした。松下電器産業株式会社（現パナソニック株式会社）やPHP研究所において松下幸之助さんのもとで薫陶を受けていた教授から、本当に多くのことを学びました。
「アメリカなど海外では、優秀な人材はほとんど起業を目指している。日本でもいざれその

有会社としてショートステイをはじめたのは私たちが第一号でした。

こうして、福祉の世界で新たな一歩を踏み出した鈴木社長。苦しい時期を乗り越えて現在にいたるまでの道のりはまだまだ続きます。後編では、会社のトップとして社員に抱く思いや今後の展望についても伺います。

(後編に続く)



な時代が来るから、会社を立ち上げられるような実力をつけなさい」との言葉が印象的で、今でもよく覚えています。ゼミに所属した2年間で、社会人になるため、そして起業するために必要なことをたくさん教えていただきました。

大学卒業後、まずはどこに就職したのですか。

秋田に戻り、秋田銀行に入行しました。地元で働きながら、実家の手



一緒に働く仲間たちです

①入社きっかけ、②ご利用者様との思い出深いエピソード、③今後の目標を、今回は6人に伺いました！



当たり前の日常を、一緒に楽しむ

ゆだ みなこ
湯田 美奈子さん
介護主任
2011年3月入社

- ①保育園が併設されており、かつ働きながら資格取得に向けて勉強できるという点に魅力を感じ、入社を決めました。
- ②認知症の利用者様が、昔の思い出話を嬉しそうに語ってくださったこと。
- ③買い物や料理など、当たり前の日常生活を利用者様と一緒に楽しみたいです。



多くの人に介護のやりがいを届けたい

くどう さとみ
工藤 里美さん
介護主任
2011年8月入社

- ①知り合いに「保育園が併設されている介護会社があるよ」と教えてもらい、入社しました。
- ②少し気難しい性格の利用者様と、日を追うごとに打ち解けることができました。今では帰りに手を振ってくださるまでになりました。
- ③介護のやりがいや認知症という病気について、多くの方に知っていただけるよう頑張りたいです。



頼ってもらえる人財に

つしま こういち
津島 功一さん
介護副主任
2010年12月入社

- ①母がデイサービスに通うことになった際のケアマネージャーさんが親切に介護のことを教えてくださったことをきっかけに、介護業界に興味を持ち始めました。
- ②利用者様に「職員さん」ではなく名前を呼んでいただきたとき。
- ③利用者様が頼ってくださるような介護を行いたいです。



たくさんコミュニケーションをとっていききたい！

さわさと かおり
澤里 香織さん
介護副主任
2011年4月入社

- ①保育園が併設されているという点に惹かれ、入社を決めました。
- ②「聞き書き」を製本して利用者様にプレゼントできたこと。
- ③利用者様全員に顔と名前を覚えていただけるよう、たくさんコミュニケーションを取っていききたいと思ひます。



きららは優しい場所

ちば めぐみ
千葉 恵さん
介護副主任
2011年10月入社

- ①地元を出て一人暮らしをしたくて仕事を探していたところ、きららに出会いました。介護に携わるのは初めてだったので不安なことも多かったのですが、優しく受け入れていただきました。
- ②いつも「はじめまして」のような会話を交わす認知症の利用者様から「いつもありがとう」と言っていたこと。
- ③今までの知識や経験を活かし、利用者様にとって心地良い生活の場をつくっていききたいです。



夢と生きがいのコミュニティに

ふじた あゆみ
藤田 歩さん
介護副主任
2018年4月入社

- ①たまたまラジオで、アメリカの高齢者・母子家庭の共生コミュニティの存在を知り、このような事業をここ秋田でもできればな……と考えました。そんなとき、介護事業、保育事業を運営しながら新しい事業にも積極的に取り組むきららを見つけ、応募しました。
- ②普段あまりお話ししたことがなかった方に自分から声をかけたとき、溢れんばかりの思いをぶつけていただいたこと。
- ③どんな世代でも夢や生きがいを持って生活できるコミュニティをつくりたいです。

これが私のお仕事です

きらら短期入所生活介護事業所竿燈通り

(きららアーバンパレス ショートステイ)

同じ職場で働く仲間たちが普段どのような仕事をしているのか、知っていますか？
今回はきらら短期入所生活介護事業所竿燈通りについて、日々の取り組みから今後の展望まで、管理者の泉谷さんにまるっとお聞きしました！



管理者として、現場と感覚をずらさないようにすることを大事にしています！

管理者
いずみや まいこ
泉谷 麻衣子さん

どのようなお仕事をされている部署なのですか？

主に短期入所生活介護を行っています。ご自宅で介護されている方向けにレスパイトケア、いわゆる介護負担軽減を目的として、旅行や病気、冠婚葬祭などで介護ができない際に、短期間で施設をご利用いただいています。また、特別養護老人ホームや介護老人保健施設への入所待ちの方も利用されていて、その方々への日常生活の支援もしています。これらの業務を現在は看護師やパートスタッフを含めて、50名近くの職員で行っています。

事業所の強みって何ですか？

いくつかありますが、一つは病院受診の際に送迎だけでなく、院内付き添いまで行っていることです。また、リハビリの専門職員がその指導をしたり、病院で最期を迎えたくない方には往診を提供したりしています。加えて、認知症対策として公文教育研究会の学習療法も実施しています。



泉谷さんが仕事をする上での工夫はありますか？

週に1度は私自身が必ず現場に入るようにしています。人手の観点からは入る必要はないのですが、職員の働き方を実際に見たいのと現場の状況を肌で感じておきたいことから、こちらを実施しています。管理者として、現場と感覚をずらさないようにすることは大事だと思っています。



その仕事をしていて嬉しいことって……？

現場経験を経て管理者になった身としては、過去に指導してきた職員が教えた以上の介護スキルを身につけている様子を見ると、非常に嬉しく、頼もしく感じています。また、かつての利用者の方で体調を崩して入院し、退院後再度入所いただいた方の思い出は印象的です。その方は入院中のベッド生活で筋力が弱っており、本来歩くのが難しい状況でしたが、「どうしても歩きたい」と。そこで手を繋ぎつつ歩いたのですが、少しだけ歩くことができて「ずっと歩きたかった、ありがとう」と涙ながらに言われたときは非常に感動しました。

今後の目標を教えてください！

また「きららを使いたい」と思っただけのような環境づくり、およびそのための職員の育成を行っていきます！個人的な目標としては、地域貢献も兼ねて認知症への理解を深めつつスキルアップを図って、介護業界を担う人材の育成に携わっていきたくと思っています。

全職員参加の忘年会で「よさこい」を披露しました！これも良い思い出です。



社内報発行のお知らせ

このたび株式会社きららホールディングスでは



お客様も職員もともに幸せになれる会社を目指して

というタイトルで社内報を発行することになりました。

「きららいふ」という名前には、きらきらした瞳で毎日を過ごしてほしいという想いが込められています。きららホールディングスに関わるすべての人が、毎日楽しく、幸せに暮らしていけるようにと願って、この社内報で毎月素敵な情報をお届け致します！

きららいふの

楽しみ方

掲載された方に積極的に話しかけ、更なる交流のきっかけに

活躍する職員さんの仕事のコツや秘訣をチェックして、お客様とのコミュニケーションに活かしてみよう

皆さんの会社に対する想いを理解し、よりよい環境を一緒に作っていきましょう

次号以降の社内報をさきどり！

社長インタビュー後編、社員への思いと今後の展望が語られます。

社内報は毎月10日頃発行☆

皆様楽しんでいただける企画を鋭意制作中です。次号もお楽しみに！



今月みなさまにご紹介したいのは、本社統括本部長の茂木さんです！お仕事への思いや思い出、座右の銘とともに、みなさまへのメッセージをいただきました。



統括本部長
もてぎ かずひと
茂木 一仁さん

全事業所の財務と労務全般を担当しています。元々前職は、小売、木材関係で異業種でしたが、入社して送迎、ショートステイの相談員、サービス付き高齢者向け住宅管理者、副施設長、施設長そして4年前から統括本部長とたくさんの役割を経験してきました。「そのとき、その場所で精一杯役割を演じる。努める。異動は自分を高める最大のチャンスである」と考えてやってきました。

こんな仕事をしています

大切にしている思い

「つながる」という言葉を大事にしています。会社の中では①社会人の先輩・後輩、②社歴の先輩・後輩、③事業所の上司・部下の関係があります。私は52歳で入社しましたが、20代の方から教えてもらうこともたくさんありました。（仕事の邪魔になり、ご迷惑をかけたことも多々……！笑）年齢、キャリアで決めつけずに1人ひとりを敬う。260名以上の職員全員がそういう気持ちになれば、仲間としてつながれると思います。そして、100年、200年と永続的につながるきららになると考えています。

一方で難しいことも…

職員の思いを聞き続けることですね。仕事が大変、上司が厳しい、家庭内に問題がある、といった悩みに対応して環境を整える。普段から接する時間をとらないといつもと違う様子に気づけないので、日頃から声をかける。相談しやすい形を作っていくことが大事ですね。これが難しく、いまだ出来てないのですが……。

やっぱり利用者様、職員の方々に笑顔で「ありがとうございます」と言っていたくことですね。その他には何も無いです。一番は「自分以外は皆お客様であること」を忘れずに働いていくことです。

この仕事のやりがい！

きららに入所された方が始めは入所を恥ずかしいと思って隠しがちでしたが、部屋で話を重ねていくうちに、お友達を部屋に呼んでくれました。自分の存在がここにあると表明してくれたことは嬉しかったですね。また、利用者様が笑顔で竿燈祭りにカメラをもって私たち職員と写真をとってくれたとき、利用者様とのつながりを心から感じました。

利用者様との思い出

座右の銘

「年齢はハンデじゃない。自分の情熱の衰えを年齢のせいにはしてはいけない。」と名刺の裏に刷り込んでいます。赤いはんこで「byもてちゃん」と入れて（笑）自分で見て衰えを感じたら辞めなければいけないと思っています。守り続ければ80歳になっても働けます！

職員のみなさまへ

自分が頑張っているかを評価するのは周りです。そのためにも、とにかくコミュニケーションをとりましょう。相談してみましょう。仕事ですから8割は大変だと思いますが、あとの2割の中に良いこと、楽しいことを見つけてほしいです。楽しいと思えたときが、それが「天職」と思えるときと私は信じています。自分の可能性を信じて、新しい分野にどんどんチャレンジしてください！

